

アメリカ南部における奴隷制プランテーション

ヨンの財務諸表の再構築

現代的な会計手法の導入

要旨

氏名：高崎漱一郎

本研究は、19世紀中頃のアメリカ南部における奴隷制プランテーションの経営の実情を把握するための基礎として、現代会計手法を用いて財務諸表を再構築することを目標にしている。これは、市井の「奴隷制プランテーションは粗法経営である」という認識に反し、プランテーション経営が高度な管理を伴っていたという Caitlin Rosenthal の指摘を出発点としている。そのため、奴隷は生産装置として扱われ資産として記録されていた点や、“資本”効率を最大化するために詳細な等級分けが行われていた点を財務諸表作成の前提としている。

本研究では、1850年のミシシッピ州を基準としたモデルを構築し、各種統計や資料を元に、棉花販売のみならず奴隷の年齢・能率別分布、プランテーション内部での価値創造などを取り入れた財務諸表を作成した。この過程では、奴隷の取得価額や減価償却方法、さらには内部消費の評価を取り入れたが、これらは今までにない新しい論点であり、奴隷制プランテーションの経営資料に現代的な会計の観点を導入できたものと考えている。

具体的な成果物としては損益計算書、貸借対照表を作成した。J. M. Williams の資料を基礎としたことによって科目の表示が非常に細かくなっており、現代の我々にとっても奴隷制プランテーションの活動が直感的に理解できるものであると期待している。

本研究は現代的な見地からの財務諸表を作成したが、その数値詳細について

採用する際には検討を尽くしたものの、先行研究によって開きがある項目も多いため、絶対的な保証をするものではない。むしろ、その数値をどのように財務諸表に載せていくのか、という方法論にこそ意義があると考えられる。

これらは、過去の経済史研究における奴隷制の評価を補完し、現代的な会計の観点からプランテーションの経営構造を解明する試みである。その意義は、単にプランテーション経営の理解を深めるにとどまらず、現代のディスクロージャー制度に対しても示唆を与えるものであろう。